

市況予想レンジ

| 項目 | 時期 | 直近3ヵ月実績 | | |
|-------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 5~7月 | 2月 | 3月 | 4月 |
| 長期国債10年物(%) | 1.00 ~1.50 | 1.265 ~1.490 | 1.320 ~1.535 | 1.235 ~1.385 |
| 円ドル相場(円) | 95 ~110 | 103.50 ~105.87 | 103.70 ~107.70 | 105.50 ~108.90 |
| 日経平均株価(円) | 11,500 ~13,000 | 11,271.04 ~11,754.90 | 11,506.85 ~11,975.46 | 10,770.58 ~11,911.90 |

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

4月の日銀短観やその後に発表された経済指標から判断して、足元の日本経済が依然調整局面にあることは間違いなさそうです。また直近では、原油相場の高値推移、米国経済の指標悪化、インフレ懸念の拡大、株価の大幅下落、中国での反日デモ等海外での不透明感の高まりにより、日本経済の調整期間の長期化が懸念されるようになりました。しかしながら、情報関連セクターの在庫調整は進捗しており、設備投資も機械受注の動向を見る限り底固く、また個人消費は雇用・所得環境の改善から堅調に推移すると予想されます。輸出は当面鈍い動きとなる懸念されますが、国内景気が下振れするリスクは小さいと見られます。

(米国)

米国経済は依然自律的回復を続けてはいるものの、1-3月期GDPが+3.1%に止まったように成長スピードの鈍化が見られます。足元の経済指標も、雇用・所得関連は増加傾向が続いていますが、住宅投資、小売売上高等はいずれも堅調とは言い難い状況です。原油価格の上昇が続けば個人消費に悪影響を与え、景気の先行きに対し慎重な見方が強まると想定されます。インフレ懸念については、引続き企業の高い生産性の伸びが基本的には物価の上昇を抑制する要因となりますし、原油価格の動向には注意を要しますが、景気の腰折れに繋がるほどの影響はないと思われます。

株 式

(国内)

国内景気は当面踊り場が続き、年度後半には緩やかな回復局面を迎える見方に変わりなく、現状の米株安、中国リスク等による下落は長期に亘らないと見えています。現状の企業業績予想に基づけば、株価水準には割安感があり下値を支えると予想されます。それだけに、今後の決算発表の内容と2005年度業績予想が当面の注目材料と言えます。また、需給面では1-3月期に大量に買い越した外人投資家の動きが止まったことが、相場に膠着感をもたらしています。国内機関投資家の構造的売り圧力も相当程度後退しており、今後の外人投資家の動向が注目されます。

(外国)

米国株式市場は、労働コスト・金利コストの増加、設備投資の拡大による減価償却の増加等から企業収益の伸率が鈍化すると予想されることや景気減速見通し、更に原油価格の上昇等から当面弱含みの展開が続くと予想します。しかしながら、業績鈍化や政策金利の引上げ等は既に市場に織込まれつつあり、下値は限定的と見られます。欧州市場は、海外景気減速による企業収益の悪化や米国市場のもたつきから、上値余地は乏しいと予想します。

債 券 ・ 為 替

(債券)

国内経済は本格的回復は後ずれし、当面は緩やかな輸出・設備投資主導の景気回復が続きますが、旺盛な資金需要は見られないことからデフレ脱却には至らず、量的緩和政策も継続されることから、長期金利はボックス圏で推移すると予想します。米株安、中国リスク等による株価急落により、足元の長期金利は低下基調を強めつつありますが、この水準からの低下余地はさほど無いと見えています。

米国の国債市場は、景気減速見通しや株価下落、更にGMの格下げを発端としたクレジットリスクへの懸念から「質への転換」の動きも加わって金利低下基調が続いています。しかしながら、景気腰折れの懸念は小さく、インフレ率の上昇も見込まれることから、FRBは当面利上げを継続する見通しであり、金利低下基調が長期に亘ることはなく、ボックス圏での推移が見込まれます。

(為替)

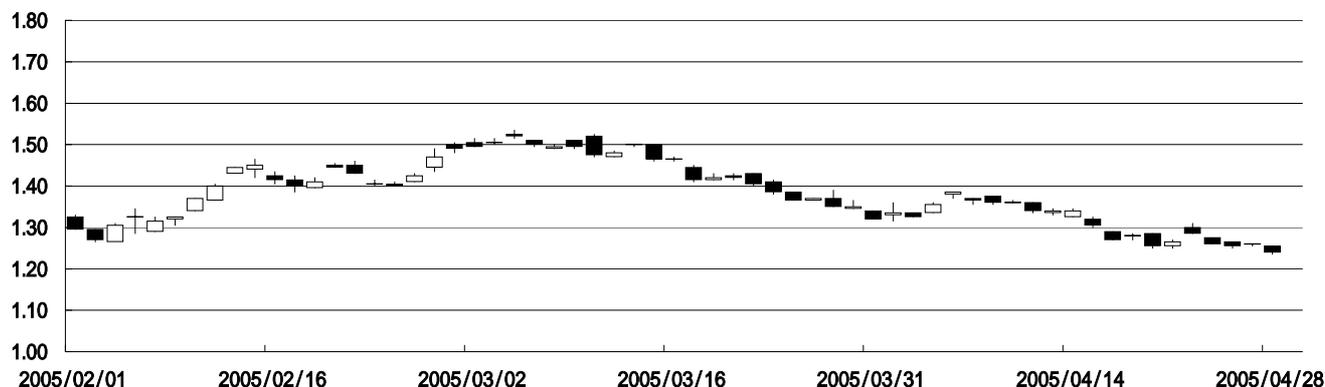
円ドルは、短期的には国内機関投資家の新年度入り以降の対外投資活発化という季節的要因に加え、日米金利差の一段の拡大などの材料でドル反発の展開となっています。しかしながら、今後は米国の利上げ加速懸念が払拭され、原油価格の高止まりなどから経常赤字の拡大、更に人民元切り上げ観測は断続的なアジア通貨高要因として作用し続けること等から、ドル安傾向は継続すると見られます。

また金利差、景況感格差からユーロ安圧力がかかっていますが、米国経常赤字拡大への懸念、ロシア、中国など外国中央銀行の外貨準備のユーロ・シフトが継続的なユーロに対するサポート要因になり、先行きはユーロ高の展開となる見込みです。

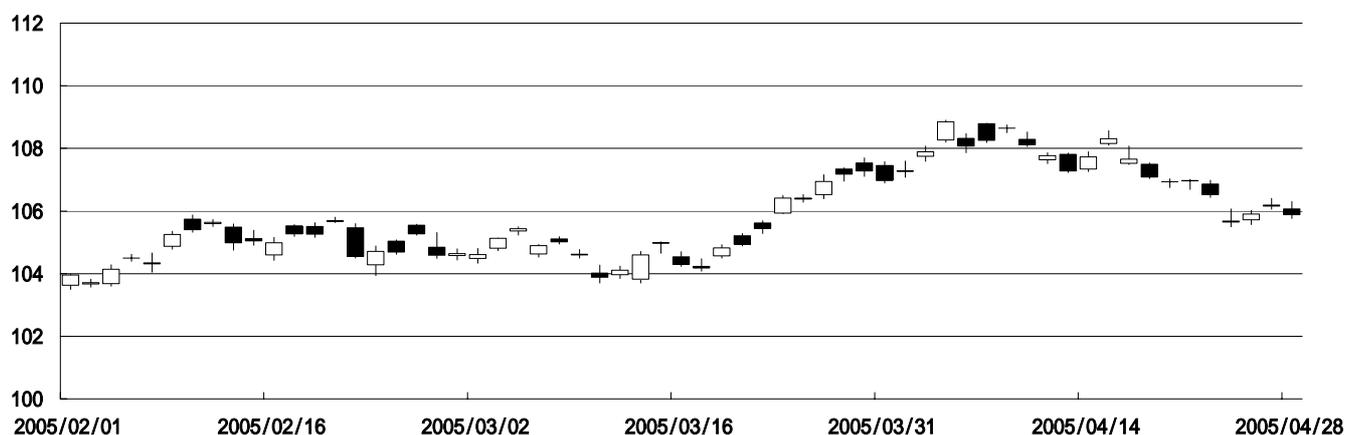
- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

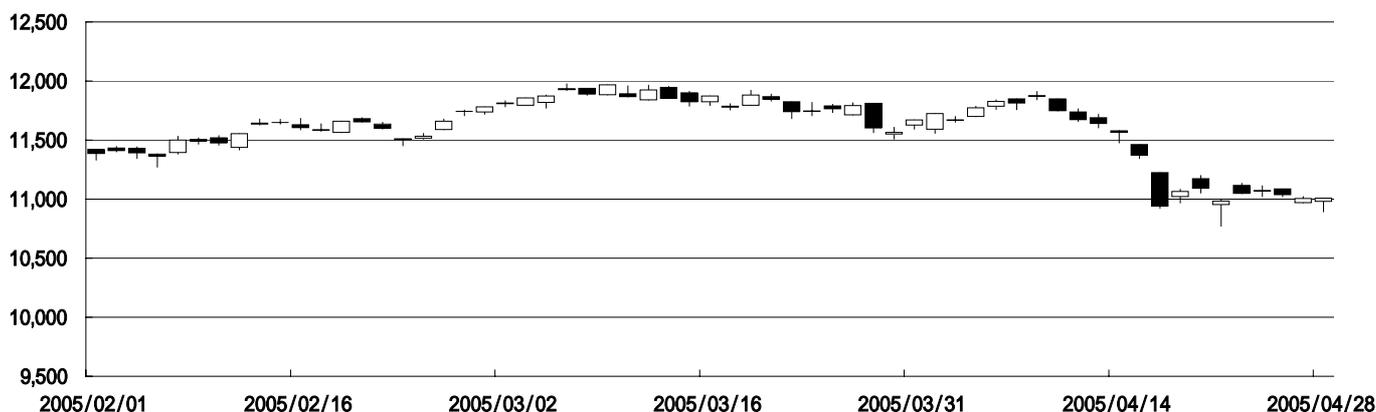
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



日経平均225種



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。